



発行所  
日刊自動車新聞社  
東京都港区芝大門1丁目10番11号  
電話 東京 (03)5777-2351代表  
©日刊自動車新聞社2023

3月23日  
(木曜日)

サプライヤー

TOPインタビュー

# 針路



(43)

ダイヤモンドエレクトリックホールディングス

## 小野の有理社長

自動車とエネルギーソリューション、電子機器を「事業三本槍」と位置づける。主力の点火コイルには電動化を背景に逆風が吹くが、技術開発を続けてきた次世代製品も道筋が見えつつある。

「数字だけを見れば、そのように捉える向きもあるだろう。しかし、祖業である点火コイルで車載部品の厳しい品質要求をクリアしてきたからこそ、自動

車メーカーとの関係を構築できた。今後燃費の向上や排ガスの削減など、自動車の進化に必要の責任がある。点火コイルの開発ができるオンリーワンの企業として、世界シェア1位を狙

動を進めて黒字化を目指す」次世代点火コイルの論文も近く公表へ

「一翼を担うと信じている」事業三本槍を支える生産体制の強化に向けて

未踏の地だった売上高900億円を超える

「サプライチェーン（供給網）の混乱や原材料価格の高騰など不透明な要素はあるが、今

「昨年、トヨタ自動車販売する住宅用蓄電システムに当社のパワーコンディショナーやコイル技術の結晶、チャンピオン品

「次世代の点火コイルは、カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）に貢献するものとなる。いわば、点火コイル技術の結晶、チャンピオン品

「エアコンの基幹部品を製造するメキシコ工場の立ち上げを急ピッチで進めている。北米では省エネ性能の高いエアコンの需要が高まっていることから、当初予定していた10月よりも早い稼働開始を目指している。当社はかつて、点火コイルの販売

# 点火コイル企業で世界シェア1位へ

「サプライチェーン（供給網）の混乱や原材料価格の高騰など不透明な要素はあるが、今期はグループとして、未踏の地」だった売上高900億円を超える見通しだ。決して拡大主義ではなく、生き残るために適切な規模を常に意識しているが、顧客の信頼を得るためには一定の結果も求められる。ダイヤモンド電機と田淵電機の2社同時再生に取り組んできた当社にとって大変喜ばしい数字だ。今春には新中期経営計画を発表



経営計画で「車と家をもつくりでつなぐ」を掲げ、自動車事業を大切にしてきたからこそ実現できたこと

「現在、安定性や安全性などで米国の独禁法に触れ、長らく実用化に向けた技術開発を進めており、協業する企業とNDA（秘密保持契約）を結ぶなど、一定の成果共有ができています。対外的な公表は5月に予定している論文の発表になる。当社はものづくり企業として、地球環境に優しい社会に資することを喜びとしてきた。この次世代の点火コイルがゲームチェンジャー

「『地域マイクログリッド』というエネルギーの、地産地消」を目指すもので、昨秋に資源エネルギー庁から事業者として採択された。1680世帯が住む地域を対象に蓄電池や太陽光パネルを導入し、当社のパワーコンディショナーや住宅向け蓄電システムを通してエリア内の電力効率の最適化を図る。早期の収益化により雇用の創出や産業の活性化も実現し、地域への恩返しをしたい。将来的には一つのパッケージとして、新潟や栃木など生産拠点のあるエリアでの導入も考えている」

## 次世代品 ゲームチェンジャーの一翼に

「記者の目」 「地球環境に優しい社会」という小野社長の言葉にもあるように、同社の全事業に脱炭素のコンセプトがある。20年には事業の使用電力を100%再生可能エネルギーで賄うことを目指す国際イニシアチブ「RE100」にも加盟し、CO<sub>2</sub>ゼロのものづくりの実現に向けて取り組みを加速させている。それだけに5月に論文発表する次世代点火コイルにかける思いは大きい。EV一辺倒の戦略に懐疑的な声も出始めるなか、業界に新たな潮流を生む一手となるか。（草木 智子）